

## 地域ブロック情報



日本社会福祉学会には7つの地域ブロックがあり、それぞれに特徴的な活動が展開されています。

今号では、関東地域ブロックおよび中部地域ブロックの活動についてご紹介いたします。

### 関東地域ブロック から

関東地域ブロック担当理事  
荒井 浩道（駒澤大学）

関東地域ブロック（略称；関東部会）は、北海道、東北、関東、中部、関西、中国・四国、九州と7つある地域ブロックのなかでも最も会員数の多い、大所帯の部会です。

関東部会のメインイベントは、研究大会です。例年、3月上旬に開催されています。昨年度の研究大会は、2019年3月10日（日）に、駒澤大学駒沢大学キャンパスで開催されました。大会テーマは、「持続可能な社会を支える“脚力ある人材”の育成」というアップ・トゥ・デイトなものです。内容は盛りだくさんです。

まず、午前中に自由研究報告が行われました。関東部会の自由研究報告には3つの部門があります。昨年度は、研究報告部門は6演題、萌芽的研究報告部門は10演題、実践報告部門は3演題、合計19演題の報告がありました。関東部会研究大会自由研究報告の面白いところは、比較的長い時間を使って、ゼミのような雰囲気ですら直な議論ができるところだと思っております。昨年度も研究内容、研究方法などについて濃密な議論が行われました。

研究報告部門には若手研究者育成のために奨励賞が設けられています。今年度は残念ながら奨励賞の受賞はありませんでしたが、奨励賞をきっかけに社会福祉学の発展に寄与する若手研究者が育成されることを期待しております。

関東部会研究大会の特徴は、他の地域ブロックとの交流があるところです。近年、北海道地域ブロックと交流させていただいております。昨年度も研究報告部門、萌芽的研究報告部門において、それぞれ1演題の報告をしていただきました。他の地域ブロックとの交流は、相互にとって刺激があり、良いことだと考えております。今後、他の地域ブロックとも交流させていただければと存じます。

研究大会の午後は、まず、「2018年度一般社団法人日本社会福祉学会奨励賞受賞者」によるワークショップを行いました。テーマは、「どう進める？わたしの研究活動」です。久保美

紀先生（明治学院大学）にコーディネーターをお願いし、駒崎道先生（専修大学）、永野咲先生（昭和女子大学）にお話をいただきました。

その後、駒澤大学経営学部青木茂樹先生に「Society for GOOD～Purpose Driven な組織へのコンテクスト転換～」というタイトルで基調講演をいただきました。シンポジウムでは、成田すみれ先生（社会福祉法人いきいき福祉会）にコーディネーターの役割を担っていただきました。森田明美先生（東洋大学）、小川喜道先生（神奈川工科大学）、荒井浩道（駒澤大学）、中島康晴先生（日本社会福祉士会）がシンポジストとして登壇しました。

研究大会の情報はアーカイブ化してホームページに掲載されています。ぜひご覧いただければと思います。

▼2018年度関東地域ブロック研究大会

<http://www.jsssw-kanto.jp/1360.html>

関東地域ブロックは、ホームページの充実を図っています。メインコンテンツは、機関誌『社会福祉学評論』です。『社会福祉学評論』は、他誌に先駆けて、電子ジャーナル化を行いました。無料かつフルテキストで読めるということもあり、福祉系の専門誌において、『社会福祉学評論』に投稿された論文が引用されることも増えてきました。関東部会ホームページは、機関誌だけではなく、研究大会、ニューズレターなどの情報を頻繁に更新しておりますので、是非アクセスしていただければと存じます。

▼関東地域ブロックホームページ

<http://www.jsssw-kanto.jp/>

## 中部地域ブロック から

中部地域ブロック担当理事  
山田 壮志郎（日本福祉大学）

中部地域ブロックの主な活動は、①研究例会の開催、②機関誌「中部社会福祉学研究」の発行、③大学院生・若手研究者のための勉強会の開催の3つです。

研究例会は、毎年1回、春の研究例会として開催しています。ブロック内会員による自由研究発表のほか、大学院生・若手研究者のための勉強会や、その時どきのトピックスをテーマにしたシンポジウムを開催しています。2019年度は、4月20日に愛知県産業労働センター（ウインクあいち）を会場に開催しました。

今回は、「社会福祉の“監視化”を問う」をテーマとしたシンポジウムを企画しました。近年、罪を犯した人たちの中に、高齢者や障がい者など社会福祉の対象になる人たちが少なく

ないことがよく知られるようになっていきます。刑事施設を出所したあと、再び罪を犯すことなく地域の中で暮らし続けることができるようにするため、司法と福祉の連携が謳われるようになっていきます。しかし、こうした動きは、一步間違えると、社会福祉が取り締まりや監視といったシステムの中に組み込まれる危険性も孕んでいます。こうした動きは、司法福祉の分野に限ったことではありません。児童虐待への介入、福祉事務所への警察官 OB の配置、精神保健医療福祉などの場面でも、共通する懸念が指摘されています。こうしたことから、シンポジウムでは、日本司法福祉学会長でもある藤原正範先生（鈴鹿医療科学大学）に「再犯防止とソーシャルワーク」と題した基調講演をいただいたあと、児童虐待、福祉事務所、精神保健医療福祉の各領域のシンポジストに報告をしていただきました。予想を超える 102 名の参加者を得て、活発な議論が交わされました。

今回の春の研究例会では、このメイン・シンポジウムのほかに、「修士課程修了後のキャリア形成」をテーマにした、大学院生・若手研究者のための勉強会も開催しました。一方で、自由研究発表については、エントリーがなかったため成立しませんでした。中部地域の社会福祉学研究的活性化を図るため、一人でも多くの会員が研究例会で発表してくれることを願っています。

なお、機関誌『中部社会福祉学研究』は、7月に第10号を刊行する予定です。学会ウェブサイトの中中部地域ブロックのページからダウンロードできますので、ぜひご覧ください。